

●大事な体のコトを考える●

日々の健康医学講座



今号担当
今井内科胃腸科クリニック院長
今井 英人

第624回

辛い症状に苦しむ前に

インフルエンザの予防接種について

インフルエンザの流行時期は12月～翌3月頃。12月中旬までには予防接種を受けましょう。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる感染症で、初冬から春先にかけて流行します。主な症状としては、急な高熱（38～40度）や頭痛、筋肉痛、全身倦怠感などの全身症状と、のどの痛み、咳や痰などの呼吸器の急性炎症症状などがみられます。また、インフルエンザは通常の風邪と比べ症状が重く、高齢者や乳幼児では死に至ることもあります。このため、インフルエンザにかかるとを防止したり、症状が重症化することを防止したりする目的で、インフルエンザの流行前に予防接種を行うことが一般的になっています。今回は、インフルエンザの予防接種についてご説明します。

●予防接種の時期や回数

インフルエンザウイルスは毎年少しずつ変異を繰り返しながら流行しています。このため、ワクチンは毎年そのウイルスにあわせたものが生産されます。また、現在のインフルエンザワクチンの効果は、接種2週間後～5カ月後くらいまでですので、翌年には改めてワクチンを接種する

必要があります。ワクチンの接種は10月下旬頃から開始されます。インフルエンザの流行する時期が通常12月～翌3月頃ですので、12月中旬までに接種が完了するように計画を組むのが良いでしょう。ワクチンの接種回数については、13歳未満のお子さんは2回接種した方が良いと思えますが、それ以外の方は基本的には1回接種が良いと思います。ただし、受験生やどうしても仕事を休めない職業の人、喘息など呼吸器に持病のある人などは、予防効果を少しでも高くするために、2回接種するという考え方もありますので、接種回数についてかかりつけの医療機関でご相談してみてください。

●タミフル問題について

インフルエンザは他の風邪の場合と違い、抗ウイルス薬（ウイルスに直接働きかけ、治療を早くする薬）があります。日本で最も広く使われている抗インフルエンザウイルス薬は、タミフルという薬ですが、昨年のタミフルを服用したお子さんの異常な行動が問題となり、ついには10代のお子さんは使用を差し控えるように厚生省から指示が出るまでに至りました。タミフルという薬の善悪については更なる調査が必要ですが、

日本ではこれまでに異常なほど、この薬が使用されてきましたので、今後は本当に必要な人以外は使用しないようにするなどの意識改革が（医者側、患者さん側の双方で）必要と思われまます。また、タミフルを使用せずに治療する場合、予防接種を受けている人は脳症などの重篤な症状が出にくくなりますので安心です。この点からもインフルエンザ対策としての予防接種の重要性は、これ以上に高まっていると思えます。

※

最近ではワクチンの生産量も増加しているものの、予防接種希望者も多くなっており、ワクチンが足りなくなってしまうことがあります。多くの医療機関では、初秋頃からワクチン接種の予約を受け付けていますので、早めに予約されることをおすすめいたします。



●内科●胃腸科●小児科●老人科●人間ドック併設

医療法人

今井内科胃腸科クリニック

院長 今井 英人

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘5丁目27番地
TEL&FAX 052-771-3322(代)

